

# 松岡恕庵と『内経経脈口訣』

天野陽介

『内経経脈口訣』の翻字作業は、加畑聡子氏・宮川浩也氏とともに現在進行中である。

- 今回は、以下の内容について報告する
  1. 松岡恕庵について
  2. 龍谷大学写字台文庫所蔵 松岡恕庵自筆本
  3. 浅井周伯と浅井家について
  4. 『内経経脈口訣』

# 1. 松岡恕庵について

# 1- (1) 松岡恕庵の略伝

- 1668～1746、79歳
- 名は玄達、字は成章、通称は恕庵、号は怡顔齋・苟完居。
- 本草学の碩学。
- (儒)山崎闇齋・伊藤仁齋、(医)浅井周伯、(本草)稻生若水に学んだ。
- 弟子、小野蘭山・戸田旭山・浅井凶南など。

## 1-(2) 松岡恕庵の主な編著書

- 編著書は『食療正要』『用薬須知』『蕃藎録』ほか多数。
- 薬用や食用にとらわれず、形態・生態を主に記した博物誌的傾向が強い。
- 『用薬須知』はわが国の本草学を博物学的な方向へと導いた先駆書として評価される。

## 2. 龍谷大学写字台文庫所蔵 松岡玄達自筆本

## 2-(1) 龍谷大学写字台文庫

- 京都の龍谷大学は、寛永16年(1639)西本願寺に設けられた学寮(僧侶養成機関)にはじまる大変歴史の長い大学であり、同大学図書館には多くの貴重書が所蔵される。
- 写字台文庫は、浄土真宗本願寺派歴代宗主の蔵書。第21世明如宗主の時代、明治25年(1892)と同37年(1904)の2回にわたり、全蔵書が龍谷大学図書館に譲与された。写字台文庫の現蔵書数は6520部、3万余冊あり、うち医書は653部ある。

## 2- (2) 松岡恕庵自筆本

- 写字台文庫の中に江戸時代前期に記された、松岡恕庵自筆の医学講義録10点が残されている。

- 薬性記 貞享2年(1685)12月5日奥書
- 内経経脈口訣 貞享3年(1686)3月4日奥書
- 難経本義記聞 貞享3年(1686)3月13日奥書
- 運氣論講義 貞享3年(1686)4月27日奥書
- 溯回集講義 貞享3年(1686)6月17日奥書
- 本草摘要講義 貞享3年(1686)9月19日奥書
- 病機撮要講義
- 内経素問講義
- 格致余論講義
- 医学正伝或問備忘記
  
- 奥書から、玄達19歳頃のものと思われる

- 浅井周伯講
  - 薬性記
  - 難經本義記聞
- [浅井周伯講]
  - 病機撮要講義
  - 本草摘要講義
- [周伯高弟の講義]
  - 運氣論講義
  - 内經素問講義
  - 格致余論講義
  - 溯回集講義
  - 医学正伝或問備忘記
- 不明
  - 内經經脈口訣

(山田慶児氏の考察)

### 3. 浅井周伯と浅井家について

## 3-(1) 浅井周伯の略伝

- 寛永2年(1625)～宝永2年(1705)10月30日、享年63。
- 号は正純、通称は周伯・周璞、号は策庵・養志堂。
- 京都の人。饗庭東庵とその高弟・味岡三伯に医学を学び、井原道閔・小川朔庵・岡本一抱とともに味岡門の四傑と称された。浅井氏が家学とした内経学の始祖であり、以後浅井家は『黄帝内経』を家学とし「素霊伝家」と称した。門人に戸坂三碩、松岡恕庵、森嶋玄勝、林恒斎がいる。
- 京都岩倉妙満寺に葬られた。

## 3- (2) 浅井周伯の編著書

- 『黄帝内经灵枢弁鈔』、『病機撮要註解』、『経穴機要』、『灸法要穴』、『浅井先生診脈秘伝』、『三臓之辞』、『腹舌之候』など
- 『黄帝内经灵枢弁鈔』は浅井周伯の講義を戸坂三碩が筆録したもの。元禄2年(1689)写。
  - 松岡恕庵とほぼ同時期に浅井周伯に学んでいた。

## 3- (3) 浅井家の人々

- 初代 盛政(もりまさ)
- 2代 将政(まさなり)
- 3代 正純(まさずみ) 周伯・策庵
- 4代 正仲(まさなか) 東軒・周迪
- 5代 政直(まさなお) 凶南・惟寅・頼母
- 6代 正路(まさみち) 周碩・南溟
- 7代 正封(まさよし) 貞庵
- 8代 正翼(まさしげ) 紫山
- 9代 正贇(まさとし) 九皐
- 10代 正典(まさつね) 国幹

## 4. 内経経脈口訣

- 『十四経発揮』をテキストとした医学講義の受講ノート
- 〔講義者〕不明
- 〔ノート筆者〕松岡恕庵
- 〔作成日〕貞享3年(1686)3月4日

十四經發揮卷上

謂葛洪撰字生甫壽伯仁著  
吳郡會稽薛良武校刊

手足陰陽流注篇

脈度篇凡人兩手足各有三陰脉三陽脉以合為十二經也

三陰謂太陰少陰厥陰三陽謂陽明太陽少陽也人兩

手足各有三陰脉三陽脉相合為十二經也手三陰謂

太陰肺經少陰心經厥陰心包經手三陽謂陽明太陽

經太陽少陽經少陽三焦經足三陰謂太陰脾經少陰

腎經厥陰肝經足三陽謂陽明胃經太陽膀胱經少陽

膽經謂之經者以血氣流行經常不息者而言謂之脈

者以血理分表行體者而言也故經者徑也脈者徑也

經 脈度篇  
脉 未氣篇  
說文脉血理之分  
表行體中者徑  
曰五藏六府之  
氣分流通四肢

以上雜取素問難經甲乙經聖濟檢錄中參合為篇

十四經發揮卷下終

寬文五巳正月吉祥

山本長兵衛尉新刊

十四經ノ習テ督任カラサキヘヨムゾ

督脈

五経習テ督任カラサキヘヨムゾ

督脈經穴歌

督脈背中行二十七穴 始長強腰胸膈  
ツツ穴一歌カハルシカクシチニクイユニシツカフニカサセツタ  
金門當上ハ明トクニカウ當トニ神道長コニ道トクカウ長存  
ツツツツ百有六トクノ首ニニニ下頂トクノハニシメトメトツニ  
コノ助語ノ字ニツカクコノリナリソスニツラモツ例ソ

督之為言都 此の揚玄釋カ注ニ都ハス(クルヒ)督脈ノ背ノ  
中行ラメリテ三陽脈ノ都細ス(クルヒ)トタルト三陽ノ外ツラヒ  
ツツス(クルヒ)トミルトセリ

督脈者起下極之胸 此ハ二十ハ難ノ語ノ下極之胸ト多ニ説  
アリ 滑伯仁ハ膏肓ノ穴ノ一トシニスリヤ有陰ノ一任脈ノ  
中ニアリ 前陰ト後陰トクニ又シカウラフニ下極之胸トモ  
コカラツルト青經ハ脈ノウチニ任脈督脈ノ下極之胸トモ  
男ノ子ノ陰ノ中カラツルトコカラフニ下極之胸トモナリテ

手太陰肺經穴歌

手太陰肺十一穴中府雲門天府列俠白尺澤孔最存列缺  
經渠太淵涉魚際少商如韭葉

手太陰肺之經 凡十一穴左右共二十  
二穴○是經多氣少血

肺之為藏六葉兩耳四垂如蓋附著於脊之第三椎中有二  
十四空行列分布諸藏清濁之氣為五藏華蓋云

手太陰之脉起於中焦下絡大腸還循胃口上膈屬肺

起發也絡繞也還復也循巡也又依也治也屬會也中焦者  
在胃中脘當臍上四寸之分大腸註見本經胃口胃上下口  
也胃上口在臍上五寸上腕穴下口在臍上二寸下腕穴之  
分也膈者隔也凡人心下有膈膜與脊脇周圍相着所以遮隔

手太陰肺經穴歌

手太陰肺十一穴中府雲門天府列俠白尺澤孔最存列缺  
經渠太淵涉魚際少商如韭葉

凡十一穴左右... 是經多氣少血... 中府トク、雲門ト云カフ列ト  
イウワ下ニナコリ例也

肺之為藏六葉... 蓋トハ率飽ヤ中藏經... 天子ノ出御トキ車ニカサカサチ...

手太陰之脉起於中府... 本又ト云コリカ右ヤ... 大腸ト表裏ト表裏スルニ...

## 〔『十四経発揮』〕

- 商丘在足内踝下微前陷中

## 〔内経経脈口訣〕

- 商丘ハ 内クルブシスコシ前 足クビヲ内ヘヨ  
リカガメテトレバ ヒクミガミヘルゾ。
- 胆経ノ中包ノ穴トマギルルゾ 中包ハ前ヘヨッ  
テアリ クルブシノフトイスヂヲ前ヘハツシテツ  
ケレバ ヨリアフゾ。

## 〔『十四経発揮』〕

- 膏肓、在第四椎下、近五椎上、取穴時令人正坐、曲脊伸両手、以臂著膝前令正直、手大指与膝頭齊、以物支肢、毋令臂動揺。
  - － 膏肓、第四椎の下に在り、五椎の上に近し、穴を取る時、人をして正坐せしめ、脊を曲めて両手を伸べて、臂(ひ:ひじ)を以て膝の前に著け正直に、手の大指と膝頭と齊(ひと)しく、物を以て肢を支え、臂を動揺せしむること毋(なか)れ。

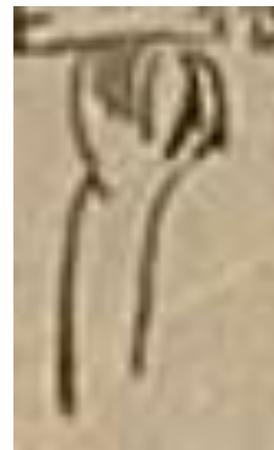


## 〔『十四經發揮』〕

- 陽池、出臂外兩骨之間

## 〔内經經脈口訣〕

- 陽池—コレハ手ヲカクゴトクニシテミレバ ク  
ボカナル中ガアルナリ



# 結語

- 内経経脈口訣は、320年前に19歳の青年が受けた医学講義を記したノートである。
- 当時の医学伝習風景とその水準をうかがい知ることができるばかりでなく、19歳という若さの松岡青年の医学学習に対する情熱を感じうる。
- 内経経脈口訣の翻字作業を完遂すべく作業中である。